

安城小学校の「なぎなた踊り」伝承活動の取組

1 学校名

西之表市立安城小学校

2 学年・人数

全校児童（計 10 人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年 5 月～10 月 安城小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和元年 9 月 23 日（月） 安城校区・安城小学校合同運動会

令和元年 10 月 27 日（日） 秋の大祭での奉納（安城諏訪神社）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

なぎなた踊り（なぎなたおどり）

(2) 由来

なぎなた踊りは、奥州仙台にて、「みやぎ」と「しのぶ」の姉妹が志賀団七郎を相手に父の仇を討つ物語である。お互いの口上後に、男女の列が入れ違いながら剣となぎなたで斬り合うところが見所となっている。

(3) 構成等

剣を持った男子一列となぎなたを持った女子一列が前に進み出て踊る。お互い対になり剣となぎなたで斬り合うところが最大の見せ場である。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間に「郷土文化を受け継ごう」というテーマを設け、なぎなた踊りに取り組んでいる。高学年から低学年に伝承するという形をとってきたが、児童数の減少に伴い子供同士の伝承が難しくなってきた。そこで、昨年のビデオを見ながら確認をしたり、隊列を決めたりしている。細かい動きについては、地域の指導者を講師としてお招きして教えていただいている。

着付けについては、地域の方を講師に依頼して親子着付け教室を開催し、保護者が自分の子供の着付けができるように練習している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

児童数減少に伴い、踊り手の人数不足や男女のバランスが悪い。そこで、小学校を卒業した中高生に声をかけ、運動会や秋の大祭の踊り手として協力をもらっている。今後は教職員や地域の大人にも協力を要請していきたい。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



体育館での練習



体育館での練習



秋季大運動会での発表



秋の大祭でのなぎなた踊り奉納

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想及び意見

【1年生児童】

剣を持って踊るのがかっこいい。

【6年生児童】

去年は、初めてだったので分からないことがたくさんあったけど、今年は2回目なので上手に踊ることができた。

【保護者】

1年生からなぎなた踊りをしている子供は、さすがに上手で驚きました。息子も2年目は踊りを覚え、自信をもって踊ることができていました。安城小に来て、初めて伝統芸能に携わり、とてもいい経験になっています。

【教職員】

児童数減少により、高学年から低学年への伝承という形が難しくなっている。教職員も入れ替わりが激しく、なぎなた踊りを経験している職員も少ないため、十分な指導ができない。地域の指導者に頼っている部分が多い。映像や資料を整理し、引き継ぎが十分にできるようにしていきたい。

【地域の方から】

今年は安城小の児童が久しぶりに2桁になり、活気がある。なぎなた踊りなど地域行事にも多くの子供たちが参加してくれ、元気がもらえる。